

# 5年

## 俵屋宗達のように

まず、俵屋宗達の「風神雷神図屏風」を鑑賞しました。描かれているものをよくみて、特徴を考えました。次に、尾形光琳の作品も鑑賞しました。尾形光琳は、俵屋宗達の風神雷神に感銘を受け、模写をすることで学び、独自の作品を生み出した画家です。模写はただの真似ではないことを、尾形光琳を通して考えてほしいと思いました。



俵屋宗達の作品を、模写しました。下描きをせず、直接、描きました。同じ作品を模写しているのに、同じ作品は一つもありません。その人らしさが作品に表れています。恐ろしい風神と雷神というよりも、笑い声が聞こえてきそうなユーモラスな作品が多いです。

芝小学校には郷土資料室に尾形光琳の風神雷神図があるので、なおさら身近な作品のようでした。

## 二つの色からはじまる絵

自分で選んだ二つの色を使って、その色合いの可能性を見付けながら表現をします。始めに全員で、小さい紙（5 cm×5 cm）に赤と黄色で色合いをつくりました。決められた2色であっても、表現の仕方が全く異なり、印象も違うことに気付くことができました。

自分で2色を決めますが、「海を描きたいから青」「太陽を描きたいから赤」など、描きたいことから色を決めるのではなく、色合いをつくりながら、表現したいことを見付けていくようにしました。その過程で、具象的な表現にたどりついたり、自分にとっての心地よさを表したり、その人なりの色合いの可能性を追求していきます。

## 二人のいる風景

5年生は74人います。「5年生」とまとめられますが、そこには別々の一人一人がいて、一人一人の人生があります。同じもの一つもありません。今回使った「人」にも別々の人生があります。その「人」の関係や人生を考えた場面をつくりました。

無作為に選んだ鉄道模型の人形から、関係を考え、ある場面をつくりました。

私たちは様々な出会いを繰り返しながら生活をしています。人との関りの中で自分の人生がつくられていることに感謝して生活をしてほしいです。



